



おにぎり通信

2018年1月20日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座、日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

お正月の期間は、古くは、小正月である1月15日までが門松を飾る松の内とされていましたが、江戸時代に徳川幕府によって1月7日までと短縮され、現在でも7日までが一般的です。

そんな中、最近ではあまり行われていないようですが、「二十日正月」という正月の御馳走や餅などを今日1月20日に食べ尽くす風習があり、正月の終りとなる節目の日としていました。京阪神地方などでは、この日に、正月に用いた鰯や鮭の骨や頭を野菜などと一緒に煮て食べることから、骨正月とも言われています。20日に行われているのは、武家社会で刃柄（はつか、刀の刃と柄）を祝って、語呂合わせからこの日に鏡開きをしたものが広がったようです。

20日間もお正月があるのは長いですが、正月と言えば、羽目を外したり、何となくただただ過ごしていても許される感じがありますので、二十日正月の風習が廃れたのは少々残念な気がします。

次回の福祉行動: 1月22日(月)

東京駅丸の内南口地下に朝8時30分までに集合してください。車輪の前

に「おにぎり通信」を持った者が待機しますので、声をかけてください。病气やケガの治療を希望される方や体を休めたい方と一緒に「福祉事務所」まで同行します。

福祉行動は原則、毎週月曜日に行います。

福祉行動は、参加される方が、ご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることで成り立ちます。

最奇の福祉事務所

中央区福祉事務所...中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所...千代田区九段南1-2-1 3階

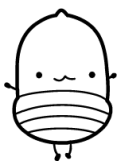
うらな
【占い】

新年の初詣では、神仏にお祈りをするとともに、おみくじを引く人がたくさんいます。おみくじは「くじ」の一種ですが、元々くじは神前で行う神聖な占いでした。くじには、神さまの意志が働いていると考えられていたからです。中には、くじで決められた天皇や将軍もいたぐらいです。

日本人、特に女性や若い人は占いが大好きで、20代女性では、だいたい半分の人が占いを信じています。これが、男性になると信じる人の割合は大幅に減り、60代の男性では1割ぐらいにまで落ち込みます。占いには沢山の種類がありますが、よく行われるものに、星や曜日から運勢を占うものがあります。これは元々「宿曜道」と呼ばれ、インドから中国を経て、日本には空海（弘法大師）が持ち帰ったと言われています。因みに、月曜から日曜までの7つの曜日（月火水木金土日、七曜＝7つの天体）は、宿曜道のお経で日本に伝わり、その後、仏教とともに広まりました。

古代の日本では、占いは、国や貴族などが重要な事からを決めるために行われ、その方法は門外不出とされていました。その後、占いは民間にも広まり、江戸時代には生活に密着するようになりました。人々は、様々な問題に悩みますが、科学や医療がそれほど発達していなかったため、それを神さまや仏さま、そしてその現れと考えられていた占いやまじないに頼ったためです。因みに、江戸時代から人気の浅草寺のおみくじは、他のところと比べて凶がよく出るとのこと。これは、多くの寺社で凶の割合を減らす傾向にある中、浅草寺は昔からの吉7割・凶3割の比率を守っているためだそうです。

年の初めに気になるのが今年の運勢です。いろいろな星占いや干支占いを見てみましたが、自分の運勢が良いものも悪いものもありました。おみくじには「吉凶悔吝」という考え方が採り入れられています。これは、「吉」であっても油断をすれば「凶」となり、「凶」であっても身を改めれば「吉」に変わるというものです。占いの結果そのものよりも、それをひとつのきっかけとしてどのように過ごしていくかが大切、ということかと思えます。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

よつや なかま れんらくさき
四ツ谷おにぎり仲間 連絡先：080-7795-8535